

CONVENTION

Character

国際会議主催者

大学教授

吉澤 憲一郎

Kenichiro
Yoshizawa

JAPAN

4年に一度の学会、
札幌開催を決意しました

「札幌はこの分野の研究において理想的な自然環境を持ち、研究者・技術者たちのレベルも世界のトップ水準です。」

また、札幌での国際会議の開催は、大学で学ぶ学生や研究者はもちろんですが、地元の人たちにもこの分野が日常生活とも密接な関わりがあることを知ってもらう貴重な機会になりました。

教育水準のアップや住民の理解醸成にも、微力ながら貢献できたのではないかと思います」

EACH MICE STORY

『誘致から開催までの道のり』

5年前 | 誘致を決意

札幌に国際会議を誘致・主催することを決意！初めての経験でわからないことだらけだったので、まずコンベンションビューローに相談しました。

PCO や会場施設などの紹介、予算案の作成など、地域との連携も含めた全面的なバックアップを受けることができ、札幌で開催するメリットを存分に盛り込んだ誘致提案書を無事に国際本部に提出。国際理事会でプレゼンテーションをすることができました。

4年前 | 札幌開催が決定

前回大会で、札幌の魅力を思い切りアピールした甲斐もあり、次回の開催地が札幌に決定しました！



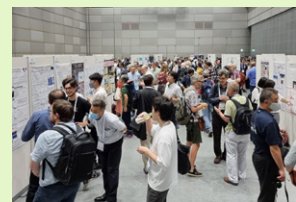
その後は実行委員会や運営会社と何度も打合せを重ねながら準備を進めました。

いよいよ本番

膨大な「やること」を一つひとつ着実に進め、ついに会議初日！



こだわった点は、発展途上国や若手研究者が参加しやすい状況づくりやジェンダーバランスです。



また、大学生にもポスター発表の場を作りました。世界トップレベルの研究者と直接話すなど貴重な経験となったようです。

CONVENTION

Character

国際会議参加者

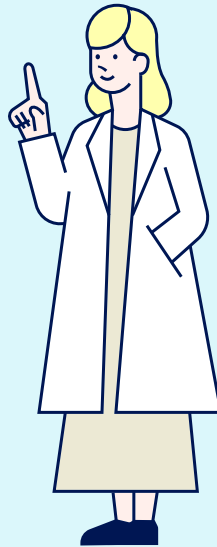
研究者

エーヴァ・
シェラン

Eva Sjøran



NORWAY

研究の更なる進歩を
心に誓います！

「4年に一度のこの学会は、今後私が国際レベルの研究を進めていく上で非常に重要な役割を果たすと考えています。」

世界中の都市をローテーションして開催されるため、前回の欧州大会から4年振り、私にとっては2回目の参加でした。

今回は尊敬する吉澤教授の地元であり、東京からのアクセスも良い札幌という都市だったので、分科会での発表も張り切って行いました」

EACH MICE STORY

『初めての日本、初めての札幌』

私の札幌の印象

日本にはこれまで訪れたことがなく、実は「札幌」についてもほとんど何も知りませんでした。

でも今回、学会（国際会議）が札幌で開催されることが決まり、学会の特設WEBサイトなどで札幌について調べたところ、東京からのアクセスも良く、自然豊かで安全な街ということが分かり、せっかくの日本なので家族での来札を決めました！

やっぱり「食」は旅の醍醐味

札幌の情報を収集する中で、北海道はローカルフードも充実していることが分かりました。



ユニークベニューでのレセプションはまさに特別な体験で、スキージャンプ競技場を眺めながら同じ志を持つ人たちと食事や会話が楽しめるという、札幌ならではの体験が最高でした。

観光資源の充実を実感

会議参加後は滞在期間を約1週間延長し、北海道をゆっくり巡るエクスカッションに家族で参加しました。

先住民族のアイヌに関わる施設を訪れたり、日本ならではの温泉旅館にも宿泊し、大自然の中でのバードウォッチングやガイド付きサイクリングも堪能。



© ATTA

行く先々でお土産を買ったので、スーツケースがいっぱいになりました（笑）

CONVENTION

Character

会議運営会社（PCO）

チーフプランナー

高柳 絵里

Eri Takayanagi



JAPAN

働き始めて7年
初のチームリーダーに

「財務やスケジュールの管理、スポンサー企業の調整、海外招待者の対応…他にも国際会議を実現するための様々な業務を取りまとめるのが、私の仕事です。」

今回の国際会議との関わりは約5年前に遡ります。これまで他の会議を担当したことはありましたが、この規模の国際会議の誘致から開催まで、長期間チームを率いて担当するのは初めての経験。国際会議が成功した時は、他の何にも代え難い非常に大きな達成感がありました」

EACH MICE STORY

『企画から事後処理までワンストップ』

準備、準備、準備の毎日

5年前、当時まだ国際会議誘致の検討段階にあった吉澤教授をコンベンションビューローからご紹介いただき、その後何度も打ち合わせを重ねました。

そこから1年後、札幌で開催すべき理由やまちの魅力を存分に盛り込んだ誘致提案書が高く評価され、無事に札幌開催が決定！

その後は国際会議開催に向けた膨大なタスクの取り仕切りと調整など、怒涛の日々を送りました。

万全のサポート体制で挑む当日

当日は受付・クローク・会場案内・警備など多数のスタッフが必要で、会場設営・機材・看板・ポスターなど、事前に手配するアイテムも数え切れません。

これまで何年もかけて行った準備の集大成としてチーム全員が一丸となり、多くの人の協力で無事に国際会議を開催することができました。



INCENTIVE TRAVEL

Character

インセンティブ企画者

健康食品会社 人事部

リン・
ウェイ・チン

Ling Wei Ching



MALAYSIA

ご褒美旅行で
社員のヤル気もアップ

「当社では、毎年1回、成績優秀者を表彰するインセンティブツアーを実施しています。

目的地が魅力的なほど社員はツアーに参加したいと思い、売上（成績）アップにもつながることが内部統計で明らかになっています。

そのため開催地の選定はとても重要な任務です。今年は世界中の3都市を候補に選び、社員の投票で札幌に決まりました」

EACH MICE STORY

『雪は最高のエンターテイメント』

札幌を選んだポイント

- マレーシア人にとって、雪はやはり特別。雪を使うチームビルディングプログラムを実施すれば、参加者のチーム力やモチベーションアップが期待できます。
- 北海道・札幌は新鮮で魅力的な食の宝庫。地産地消でオーガニックなものも多く、当社のミッションとも合致します。
- 過去の商談会で札幌コンベンションビューローと接点があり、担当者の連絡先を知っていたのですぐに問い合わせることができました。
- ビューローからガラディナー会場の候補、札幌の旅行会社、ハラル対応のレストランなど、私たちが必要な情報を提供してもらいました。また、開催支援プログラム（空港での歓迎やガラディナーでのアトラクション提供）の提案があったことも、候補選定時には高ポイントです。

雪は特別な存在



マレーシアでは見ることのできない雪を満喫する特別な体験は、インセンティブツアー成功にとって欠かせません！



日本伝統の「かんじき」を履いて、彫刻とコラボするフォトコンテスト・チームビルディングは大好評でした。

予想以上の大成功

当社のインセンティブとしては初めての札幌開催でしたが、サプライヤーやビューローの丁寧なサポートのおかげで成功させることができました。

参加者からは「札幌が好きになった」「今度は家族で札幌に行きたい」という声も沢山聞こえてきます。

インセンティブ本来の目的の1つであるスタッフのモチベーションアップという点でも効果を実感しているので、今後も札幌開催を積極的に検討していきます。

INCENTIVE TRAVEL

Character

旅行会社

インセンティブ・
ツアー担当

小川 かおり

Kaori Ogawa



JAPAN

企画力で実現する
最高のプログラム

「旅行業界に携わって 20 年以上。国内・海外の団体旅行や法人向けツアーを担当してきましたが、近年は海外からのインセンティブツアーの受注・企画・運営を中心にしています。」

MICE 商談会に参加し、主催者や関係者と直接コンタクトをとりながら、北海道・札幌の魅力を活かしたツアーを提案します。

企画提案の作成から視察の手配・同行、ツアー終了までお客様のニーズに柔軟に対応し、より満足度の高い企画の提供に努めています」

EACH MICE STORY

『特別なツアーの特別なプラン』

企画力で挑むネクストステージ

当社はかつて団体旅行や個人旅行も取り扱っていましたが、価格競争が激化する中、近年はより高い売り上げにつながるインセンティブツアーに注力しています。

一般的なツアーと違うのは、より高い企画力と対応力が求められることです。

求められるのは特別な体験

インセンティブツアーは企業のビジネス戦略の一環として行われるため、単なる手配ではなく、目的に合った提案が不可欠です。



例えば、今回はチームビルディング要素を取り入れた雪のアクティビティを企画し、企業の期待に応えました。また、成績優秀者や招待客が対象となるため、高級感のあるホテルや特別なガラディナーの手配も重要です。細かな要望にも対応し、お客様の満足度向上に努めました。

さらに、札幌を初めて訪れる参加者が多く、ツアーの満足度によって今後の個人旅行や他国の支社からの新規案件につながる可能性もあります。

主催者の心をつかむ

インセンティブツアーの受注には、MICE 商談会や営業訪問を通じた関係構築が欠かせません。

半年前、マレーシアでの営業訪問中に、大手健康食品会社が札幌でインセンティブツアーを開催したいという情報を得ました。競合他社に勝つため、主催者のニーズに合わせた提案書を迅速に準備。札幌コンベンションビューローや地元のサプライヤーと連携し、「雪」「食」「大自然」といった札幌ならではの魅力を活かしたプログラムを企画しました。



また、ハラル対応や文化的配慮を徹底し、特定の国や地域のニーズにも柔軟に対応。ツアーのハイライトであるガラディナーでは、北海道らしさを演出するために、YOSAKOI ソーラン踊りを取り入れ、特別感のある体験を提供しました。

MICE PEOPLE

HOME

ABOUT

CONTACT



SUPPLIER

Character

サプライヤー

レストラン
ホールチーフ

松島 渉

Wataru
Matsushima

JAPAN

様々な文化への対応は
柔軟性がポイント

「国際会議のレセプションやインセンティブツアーのガラディナーが開催されるときは、レストラン全体を貸し切りにします。」

主催者やプランナーからのリクエストは多岐にわたるので、何か月も前から綿密に打ち合わせを行います。

料理長とメニューの打ち合わせ、音響・照明業者への発注、当日のスタッフの役割分担など、様々な調整が必要で、開催直前はとても忙しくなります」

EACH MICE STORY

『チーフ、心のつぶやき』

喜んでもらうことが最優先

マレーシアからのインセンティブツアーを迎えるにあたり、グループの中にハラル対応が必要な方々がいました。

当レストランの設備上、完全な対応は難しいのですが、出来る限り柔軟に対応したいと思っています。



全員が美味しくかつ安心して料理を食べられるように、主催者や当レストランのシェフと何度も打ち合わせを重ね、最高のメニューを作り上げます。

盛り上げの合言葉は「参加型」

日本の伝統文化を取り入れた演出はとても喜ばれるため、今回は競開きを実施しました。

企業ロゴがプリントされた升を主催者が用意し、参加者全員に飲み物が振る舞われました。

また、よさこいソーランのパフォーマンスも披露。近距離から見る演舞は何度見ても大迫力です。最後は踊り子と参加者が一緒に踊り、会場は最高に盛り上がりました。やはりよさこいは鉄板ですね。

五感に訴えるのが大切

料理が美味しいのはもちろんで、クライアントの希望に合わせた会場・テーブル装飾や演出もパーティーの成功のカギを握る重要な要素です。



SUPPLIER

Character

コンベンション
センター

施設管理担当

牧 亮介

Ryosuke Maki



JAPAN

会場も最新のトレンドも
しっかり押さえる

「約5年前、国際会議の誘致のために全館を仮押さえしました。通常の予約受付は2年前からですが、全館貸切の国際会議は特別対応となります。」

主催者や会議運営会社（PCO）と、会議の計画に沿ったレイアウトや見積もりを一緒に調整・提案してきました。

また近年はサステナビリティへの関心も高く、カーボン排出削減や食品ロス対策の情報も求められるようになり、当センターも積極的に取り組んでいます」

EACH MICE STORY

『ここに集まる。ここから始まる』

国際会議の誘致に挑む

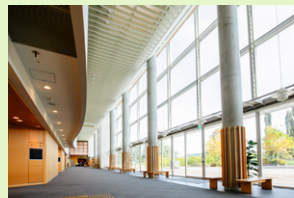
5年先の国際会議を札幌に誘致したいという問い合わせを受け、ビッドペーパー（誘致提案書）や収支計画書、プレゼン資料を作成しました。

開催地を決めるコンペでは候補となっている他の都市と競うため、札幌市や札幌コンベンションビューローとも連携し、札幌ならではのアクティビティなど魅力を伝える提案を行いました。

世界中の第一人者が集まる会議を誘致し、日本のプレゼンス向上に貢献できることに、大きなやりがいを感じています。

施設をさらにレベルアップ

サステナビリティへのニーズに応えるため、再生可能エネルギー100%の電力導入を進め、海外のコンベンション施設にも劣らないよう、国際認証の取得にも取り組んでいます。



誘致から開催まで数年にわたって支援するなかで、「札幌コンベンションセンターで開催して良かった」と言っていたことが、何よりの喜びです。

開かれたセンターを目指して



札幌コンベンションセンターでは、自主事業として学会の市民参加型プログラムの開催や支援も行っています。今回のプログラムでは、会場費や機材費の負担、広報面でのサポートを行い、多くの市民の方に参加いただきました。施設が国際会議だけでなく、地域の学びの場としても役立てることを嬉しく思います。

MICE PEOPLE

HOME

ABOUT

CONTACT

PDF
DOWNLOAD

BUREAU STAFF

Character

コンベンション
ビューロー

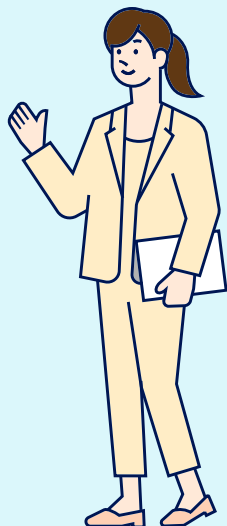
国際会議担当

黒崎 綾香

Ayaka Kurosaki



JAPAN

5年越しのサポートが
実を結ぶ嬉しさ

「5年前、主催者の吉澤教授から札幌での学会開催について相談を受け、国際会議誘致プロジェクトが開始。PCOの紹介や学会に提案する誘致提案書の作成など、教授を全力でサポートしました。

そして1年後、札幌開催が決定。電話越しの教授の声がとても嬉しかったのを今でも覚えています。

その後はPR動画や広報のサポート、市民向けプログラムの企画など、より多くの参加者が集まるよう、一緒に準備を進めました」

BUREAU STAFF

Character

コンベンション
ビューロー

インセンティブ担当

関口 翔太

Shota Sekiguchi



JAPAN

世界中の人たちの笑顔が
見られるって最高！

「以前商談会で出会ったマレーシア企業のインセンティブ担当者から連絡。過去に商談した方からの連絡は嬉しいです。

札幌が候補地のひとつとのことで、新しいホテルやアクティビティなど最新情報を提供しました。担当者一行が視察で来札し、その後すぐに札幌開催が決定。無事開催に至りました。

ビューロー提案のよさこいソーラン演舞が参加者に大好評だったというフィードバックにはやってよかった！の一言です」

MICE PEOPLE

HOME

ABOUT

CONTACT



CITIZENS

Character

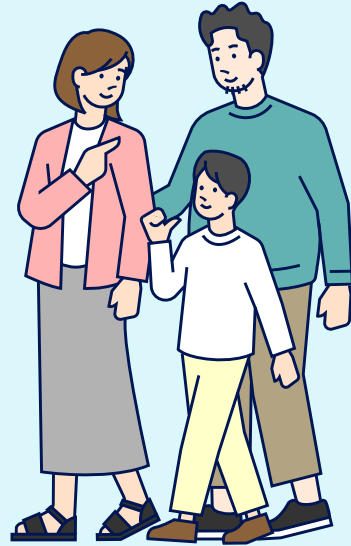
市民

清水
ファミリー

Shimizu family



JAPAN

今週はなんだか
外国人が多くない？

「通勤時の地下鉄にも外国人が多く、いつもよりも混んでいて、普段は静かな車内に英語が飛び交い賑やかでした。」

夕食時、小学生の息子が「今日学校で面白い授業があった」と楽しそうに話します。外国人の先生たちと通訳の人が学校に来て、理科の実験のような授業で盛り上がったそうです。

最近はそのようなクラスもあるんですね。普段、息子はあまり勉強の話はしないので、科学に興味を持ってくれることは親としても嬉しい限りです」

EACH MICE STORY

『札幌市民で良かった』



貴重な体験のチャンス

息子の話が気になりインターネットで調べてみたのですが、どうやら今、札幌市内で大きな国際会議が開催されていて、海外から来札した研究者が地元の小学校を訪れて授業をしているようでした。

アカデミックの世界ではかなり有名な学会で、今回の札幌開催はアジアでは初とのこと。息子の小学校を訪れた方も著名な研究者らしく、ちょっと羨ましいです。



親子での参加が楽しい

次の週末、市民参加型のプログラムが開催されることが分かりました。せっかくの機会なので、家族での参加を申し込みました。



このプログラムは親子で工作をするものだったのですが、理系出身の夫も楽しそうに参加していたし、いつもゲームばかりしている息子がアナログな工作をしている光景も微笑ましかったです。

思いのほか難しく、私たち親の方も本気で取り組ませてもらいました。



良い体験が街の魅力に

プログラムの最後に、当日講師を務めた世界的に有名な研究者と記念写真を撮りました。

その日の夕食はいつもより会話も弾み、地元札幌でも、こんな非日常体験ができる事が分かりとても嬉しいです。機会があれば、ぜひまた家族で参加したいと思います。